

/2010/07/05

## 大阪大学蛋白質研究所セミナーのご案内

大阪大学蛋白質研究所 藤原敏道

大阪大学蛋白質研究所セミナー

「超高磁場が拓く生体系 NMR：最新技術と応用」

日時：平成 22 年 7 月 29 日（木）～ 7 月 30 日（金）

場所：大阪大学 吹田キャンパス 蛋白質研究所 1 階講堂

事前登録不要、聴講無料

7 月 29 日（木）

13:00 所長挨拶

長谷俊治（蛋白研 所長）

Session 1

13:10 高磁場 NMR の意義と共同利用

藤原敏道（阪大 蛋白研）

13:35 北大における NMR 研究のための技術開発

稲垣冬彦（北大 先端生命）

14:00 新しいデータ構造、データ評価法と自動解析技術 超高磁場、超高感度 NMR 時代に向けて

小林直宏（阪大 蛋白研）

—休憩—

Session 2

14:45 NMR による膜骨格蛋白質とその制御因子の構造生物学

廣明秀一（神戸大 院医 構造生物学）

15:10 膜タンパク質のダイナミクスと機能

嶋田一夫（東大 院薬）

15:35 抗 HIV タンパク質による塩基変換反応の NMR シグナルを用いた実時間追跡

片平正人（京大 エネ理工研）

—休憩—

Session 3

16:20 転写関連因子の NMR 構造解析 西村善文（横浜市大 院生命ナノシステム科学）

16:45 リガンド結合によるリポカリン型プロスタグランジン D 合成酵素の構造変化

大久保忠恭（阪大 院薬）

17:10 SAIL アミノ酸を用いたタンパク質の構造とダイナミクス研究手法の最近の進歩

甲斐荘正恒 (名大 構造生物学セ)

パネルディスカッション

赤坂一之 (近畿大)、阿久津秀雄 (阪大)、河野敬一 (北大)、木川隆則 (理研)、  
神田大輔 (九大)、小林祐次 (大阪薬大)、寺沢宏明 (熊本大)

—懇親会—

7月30日(金)

Session 4

09:20 950MHz-NMR の設置の経緯、現状、これからの方針 池上貴久 (阪大 蛋白研)  
09:45 高磁場 NMR を用いる蛋白質の動的構造解析の可能性 楯真一 (広島大 院理)  
10:10 超高磁場 NMR による複合糖質の動的構造・相互作用解析 加藤晃一 (岡崎統合バイオ)  
10:35 NMR によるヘムオキシゲナーゼのヘム認識機構の解明 菅瀬謙治 (サントリー生有研)

—休憩—

Session 5

11:20 磁気共鳴によって細胞を探る 白川昌宏 (京大 院工)  
11:45 超高磁場 NMR のもたらすもの—感度向上と分解能— 児嶋長次郎 (阪大 蛋白研)  
12:10 少ない距離情報で構造を決める—4次元分子動力学 山崎俊夫 (理研 生命分子システム)

—閉会—